第16回 KYOTO 地球環境の殿堂

― 表彰式・国際シンポジウム ―

2026 11.21(土) 13:00~17:00 [12:15開場]　国立京都国際会館 RoomA

未来を描き、未来をつなぐ
～世代を超えて考える、人と地球のこれから～

織りなす長い歴史の中で、文化と多様な自然の共存と調和を育んできた京都。
この地で「京都議定書」が誕生しました。
今年の未来探究プロジェクトでは、未来を担う高校生たちが、
人と野生鳥獣の関係をテーマに現場で学び、問いを深めてきました。
環境保全の最前線で活躍する専門家と未来を担う若い世代が交わるとき、
そこから生まれる新しい気づきは、
日常から世界を少しずつ変えていく大きな力となるはずです。

地球を未来へとつなぐ、確かな一歩を踏み出しませんか？

本日のプログラム

13:00~ 第16回「KYOTO地球環境の殿堂」表彰式
13:45~ 「京都環境文化学術フォーラム」国際シンポジウム

第16回「KYOTO地球環境の殿堂」表彰式

主催 「KYOTO地球環境の殿堂」運営協議会
京都府、京都市、京都商工会議所、環境省、人間文化研究機構総合地球環境学研究所、(公財)国際高等研究所、(公財)国立京都国際会館

「京都環境文化学術フォーラム」国際シンポジウム

主催 京都環境文化学術フォーラム
京都府、京都市、京都大学、京都府立大学、人間文化研究機構総合地球環境学研究所、人間文化研究機構国際日本文化研究センター

後援 外務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、環境省、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都商工会議所、
公益財団法人大学コンソーシアム京都、NHK京都放送局、京都新聞、日本経済新聞社京都支社、一般社団法人イクレイ日本、気候変動イニシアティブ

公式Webサイト

第16回 KYOTO地球環境の殿堂

第16回 殿堂入り者



新海 誠氏

1973年生／日本

アニメーション監督

異常気象を背景に、運命に翻弄される少年たちを描いた『天気の子』や、災害と記憶をテーマに日本各地の風景をすくい上げた『すずめの戸締まり』など、環境と人間の関係を考える契機となる作品を世界に発信し、文化的な視点から多くの人に影響を与えた。

選考理由

映像表現で環境への気づきを広げる

新海氏の作品に通底する緻密な風景描写は、環境の変化に対する気づきを促し、世界中の人々に身近な自然とのつながりを再認識いただくきっかけとなっています。



デブラ・ロバーツ氏

1961年生／南アフリカ共和国

クワズールー・ナタール大学生命科学部名誉教授／トゥウェンテ大学地球観測科学・地理情報科学学部ウィレム・スヘルメルホーン記念マジョリティ・ワールド視点のオープンサイエンス教授

2019年に気候政策において世界で最も影響力のある100人に選ばれるなど、都市レベルおよび国際レベルの両方で、生物多様性の計画・管理や、気候変動への適応と緩和、持続可能な開発とレジリエンスの分野において貢献した。

選考理由

気候変動と持続可能な社会づくりをリード

40年以上もの間、生物多様性の計画と管理、気候変動への適応と緩和、持続可能な開発とレジリエンスの分野において、都市の実践と国際的な議論の双方において研究に取り組み、気候変動と開発に関する議論に大きな影響を与えてきました。

基調講演

オーバーシュートの抑制 1.5℃超過への対応と1.5℃への回帰に向けた経路

Limiting Overshoot Navigating exceedance of 1.5℃ and pathways towards return

■ デブラ・ロバーツ氏について

デブラ・ロバーツ氏は、南アフリカ・ダーバン市で長年にわたり環境政策やまちづくりに携わるとともに、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第2作業部会の共同議長を務めるなど世界の気候変動対策をリードしてきた研究者・実務家です。

■ デブラ・ロバーツ氏の考え

デブラ・ロバーツ氏が一貫して重視しているのは、環境問題を「自然の問題」だけでなく、「人々の暮らしやまちづくりの問題」として捉えることです。気候変動や生物多様性の課題に向き合うためには、多様な立場の人々が対話し、それぞれの価値観を尊重しながら解決策を見いだしていくことが重要だと発信しています。また、都市と自然の共生、気候変動への適応、生物多様性の保全などをテーマに活動しており、「複雑な課題に一つの正解はない。だからこそ、多様な人々が共に考え、行動することが大切である」という考え方を大切にしています。



■ 講演でのポイント

「1.5℃」は、気候変動による影響をできるだけ小さくするための世界共通の目標です。今回の基調講演では、その目標の現在地を知り、一時的に1.5℃を超える可能性も見据えながら、私たち一人ひとりや社会に求められる行動について考えます。

●プログラム詳細

第16回「KYOTO地球環境の殿堂」表彰式

13:00 オープニングアトラクション　京都市少年合唱団
13:10 主催者あいさつ
13:30 殿堂入り者表彰式（認定書授与）

聞くだけじゃない
あなたも参加するシンポジウム
会場でスマートフォンを使い、意見や質問を投稿できます！
※詳しくは別紙をご覧ください。

「京都環境文化学術フォーラム」国際シンポジウム

13:45 主催者あいさつ
13:50 基調講演　デブラ・ロバーツ 氏
14:25 受賞者紹介　新海 誠 氏
―― 休憩 ――
14:35 特別対談　山極 壽一 氏×石原 良純 氏　参加型

15:30 未来探究プロジェクト活動発表
―― 休憩 ――
16:10 パネルディスカッション　参加型
17:00 閉会

特別対談

「気候変動を、もっと自分ごとに。」

猛暑や豪雨はなぜ増えているのか。私たちは何を変えればよいのか。俳優として幅広く活躍する一方、気象予報士としても長年にわたり気候や自然を見つめてきた石原 良純 氏と、環境問題を人類の未来という視点から考え続ける山極 壽一 氏が、気候変動の本質に迫ります。

さらに、スマートフォンを使い、来場者の皆様によるリアルタイム投票を実施します。

会場の声をもとに議論を深めながら、「環境問題を自分ごととして考える」参加型の対談をお楽しみください。



総合地球環境学研究所 所長
山極 壽一 氏

×



俳優 気象予報士
石原 良純 氏

パネルディスカッション

「未来への一歩 ―世界の知見から学び、未来をつくるために私たちができること」

デブラ・ロバーツ 氏 × 高校生 × WoWキツネザル 氏

環境問題の「正解」を探すのではなく、「私たちが目指したい未来」を考える対話の時間です。高校生たちが自ら見つけた問いと、デブラ・ロバーツ氏が世界各地で培ってきた知見がどのように交わるのかも注目ポイントです。

スマートフォンを使い、来場者の皆様の声も交えながら、未来につながるアクションのヒントを探ります。



環境系エンターテイナー
WoWキツネザル 氏

未来探究プロジェクト

「KYOTO地球環境の殿堂」国際会議・未来会議（2025年9月開催）で発表された**「未来への宣言」**をレガシーとして引き継ぎ、府内在住・在学の高校生たちが、人と野生鳥獣の関係について探究する人材育成プロジェクトです。

未来への宣言

私たちは、誇るべき京都の先人たちの歩みを受け継ぎ、
未来に向けて次のことに取り組みます。

日常の中で自然を楽しみ、
いのちを慈しむ心を大切にし、その価値や
魅力を多くの人々と共有していきたい。

時代と共に新しいものを取り入れ
進化してきた伝統を深く理解し、
新たな変化を起こす挑戦をしていきたい。

地球環境課題を自分事として捉え、
生まれた時よりも美しい環境を
次の世代に引き継いでいきたい。

活動の経過

5.24 (Sun) | オリエンテーション



©佐々木 明日華（MAGASINN Inc.）

第16回殿堂入り者の功績や活動内容を学びながらフィールドワークに向けて準備しました。学生メンター※より、未来会議を通じて感じた「課題」、「改善点」、「気づき」などを共有することで、未来会議のレガシーを継承しました。

※昨年度の「未来への宣言」をした学生

7.26 (Sun) | フィールドワーク



野生鳥獣の対策に取り組む地域を訪れ、現場での工夫や取組に触れるとともに個体の焼却処理などを行う施設を見学することで、野生鳥獣が引き起こしている問題の背景や課題、人と野生鳥獣の関係性について探究しました。

・毛原地区、中丹地域有害鳥獣処理施設（福知山市）

8.21 (Fri) | フィールドワーク



シカの「捕獲」や「解体」、またジビエ肉を食べるという体験を通じて、野生鳥獣の活用について探究しました。

・寒山拾得（舞鶴市）

9.5 (Sat) | 考察まとめ



©佐々木 明日華（MAGASINN Inc.）

参加者が集まり、各々がフィールドワークで得た学びを共有し、国際シンポジウムで発表するための資料の作成や練習に取り組みました。



そして本日 11.21 (Sat)

未来探究プロジェクトの活動を発表します。そして、殿堂入り者等と代表の高校生がパネルディスカッションを行いながら、参加者の皆様と地球環境の未来について考えます。

高校生たちの探究の軌跡を公開中！

「ハンターを増やせば解決できると思っていた」
現場で見た獣害対策、担い手不足。
フィールドワークを通じて変化した高校生の問い。
現場での気づきや対話の様子を高校生自身の言葉で紹介しています。



京都の変化を届けるメディア
2050 MAGAZINE

詳細は「2050 MAGAZINE」で検索！ >>>

参加高校（順不同）

京都府立木津高等学校、京都府立南陽高等学校、京都府立桂高等学校、京都府立洛西高等学校、京都府立北嵯峨高等学校、京都府立嵯峨野高等学校、京都府立亀岡高等学校、京都府立洛北高等学校、京都府立宮津天橋高等学校（宮津学舎）、京都市立紫野高等学校、京都市立開建高等学校、大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎、京都女子高等学校、京都産業大学附属高等学校、京都聖母学院高等学校、京都先端科学大学附属高等学校、東山高等学校、立命館高等学校、立命館宇治高等学校